

医学部入試の男女不平等への処方箋 を考えるシンポジウム

平成の終わりに、日本の医療界・教育界を揺るがした医学部入試の不正問題。

2018年11月に全国医学部長病院長会議が「大学医学部入学試験制度に関する規範」を発表、また12月には文部科学省から、国内全ての大学医学部医学科への訪問調査を含む緊急調査の「最終まとめ」が公表されています。これらの文書では、従来は社会通念としてのみ認識されていた「何が不公正に当たるのか」という基準が、初めて明文化されました。とすれば、次に検討すべきなのは、「どうやって公正を継続的に実現するか」であると思います。

2019年度入学者の選抜では、昨年度まで性別による合格率の格差が大きかった大学で、格差が飛躍的に改善したと報道されていますが、これを今後も維持して行くためにはどのような仕組みが有効でしょうか。また、入試における男女不平等の問題と、医療現場の人手不足が生み出した長時間労働の問題との関係を指摘する声もありますが、これを改善するためには何を行うべきでしょうか。

日本医学教育学会の多様性推進ワーキンググループおよびプロフェッショナリズム・行動科学委員会は、これらの課題を学術的に検討することを目的として、下記のシンポジウムを企画致しました。「働き方の男女不平等～理論と実証分析」の著者であるシカゴ大学の山口一男氏には、男女不平等が生じる複数の社会的メカニズムについて、また内閣府男女共同参画局の高橋朋也氏には、男女共同参画を推進するための方策についてお話を頂きます。COML理事長の山口育子氏からは、市民の視点から入学者選抜に何を求めるか、と言った視点でお話を頂く予定です。その後、参加者全員のディスカッションを通じ、有効な処方箋について検討したいと考えています。

暑い夏の午後、熱い皆さまの御参加をお待ちしております。

「医学部入試の男女不平等への処方箋を考えるシンポジウム」

日 時：2019年8月17日（土）13:30～16:30

場 所：ルノアール貸会議室プラザ八重洲北口

東京都中央区八重洲 1-7-4 矢満登ビル 5F

シンポジスト：

シカゴ大学社会学科教授、独立行政法人経済産業研究所客員研究員 山口 一男 氏

内閣府男女共同参画局推進課 課長補佐 高橋 朋也 氏

認定 NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長 山口 育子 氏

参加費：1,000円（当日お支払い下さい）

参加申込み：<https://bit.ly/2GgUXaC>

問合せ先：prokodomed@gmail.com（野村）

